

令和8年度

辻小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 思考力を伸ばす、書く活動の充実
- 伝え合い、学び合う、話す(話し合う)活動の充実

【小中連携における共通の取組】

9年間を通じた系統的な学習習慣の確立、自ら学ぶ学習習慣をめざした家庭との協働体制づくり

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的・基本的な学習については、ある程度の習得が図られている。 ●学年が上がるにつれ読書量が減るとともに新聞を読む習慣は身に付いていない。	・ドリル学習に根気強く取り組み、自ら基礎的・基本的な学力を伸ばすことができる。 ・新聞や文章教材の言葉の意味や文章表現の意味を理解しながら正確に読むことができ、活用することができる。 ・まとまりのある文章をすらすらと音読することができる。	・様々な教育支援ソフトを活用し、基礎的・基本的な内容理解の定着を図る。 ・新聞等を活用した意味調べや言葉遊びを行い、語彙力や読解力の基礎や音読力を高める。 ・対話的な学習が行えるよう児童のファシリテーターとしてのスキルを高める。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合いの中で、友達の意見と自分の意見を比較したり、質問したりして聞くことができる児童が多い。 ●自分の考えをノートにまとめたり、自分の意見を発表したりすることに苦手意識をもっている児童がいる。 ●友達と意見交流をしながら自分の考えを深めることができる児童が少ない。	・自分の考えや根拠を明らかにして論理的に説明したり、文章に表したりすることができる。 ・友達の意見をふまえて自分の考えを深めることができる。	・対話的な学びを保障するため、対話の「型」を提示するとともに、ホワイトボード等を活用したペアやグループ学習を取り入れ、他者の多様な考えと比較しながら深く聴き合う場を設定する。 ・朝の活動や自主学習で新聞の感想や要約を書いたり、授業で振り返りの時間を確保したりするなど書く活動を継続することで表現力の向上につなげる。 ・校内研修で講師を招聘し、新聞等を活用した授業作りの指導を仰ぐ。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に対してまじめに取り組む児童が多い。 ○タブレット端末の活用は、児童の意欲や学習の定着につながっている。 ●家庭学習の時間や学習内容に個人差があり、不得意な学習内容を克服するために計画を立て、取り組むまでには至っていない。	・各教科において授業のめあてや課題を把握し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・タブレットも活用した自主学習を通して、自己の課題に応じて学習や興味・関心のある事柄についての調べ学習に取り組むことができる。	・朝の学力アップタイム等で、タブレット端末の技能習得を図る時間を設けたり、学級の実態に応じた学習内容に取り組ませたりして児童の主体的な学びの育成につなげる。 ・「家庭学習の手引き」「自主学習ノートの型」「タブレット活用ルール」をもとに家庭での学習の方法を提示し、個人に合わせた学習方法を指導する。			